

運営推進会議等開催報告書

下記事業所について、次のとおり運営推進会議等を開催したことを報告します。

1. 基本情報

事業所名	看護小規模多機能えんじゅ		
サービス種別	看護小規模多機能型居宅介護		
所在地	加西市三口町1257-2		
担当者	小西 和弘	連絡先	0790-48-8885
運営法人	ナイトウメディックス株式会社		

2. 開催日時・場所

日時	令和6年1月17日(水)14時～15時10分	場所	ナイトウメディックス株式会社 2階会議室
----	------------------------	----	----------------------

3. 出席者(敬称略)

氏名	分野	備考(所属・従事経験など)
	利用者又は利用者の家族	ご家族
	地域住民の代表者	三口町・区長
	地域住民の代表者	三口町・老人クラブ会長
	地域住民の代表者	三口町・民生委員
	市の職員又は地域包括支援センターの職員	加西市長寿介護課
	市の職員又は地域包括支援センターの職員	加西市地域包括支援センター
	当該サービスに知見を有する者	市立加西病院 地域医療室
	当該サービスに知見を有する者	加西市社会福祉協議会
	事業所職員	ナイトウメディックス株式会社 福祉事業部
	事業所職員	看護小規模多機能えんじゅ 所長・管理者

4. 活動状況報告

<p>・登録者の状況は、別紙のとおり。登録定員29名に対して、利用者数15名。 ・要介護5の利用者が7名と最も多く、次いで介護2の利用者が4名となっている。 ・12月末に1名の方が、泊りで看取り。1名の方が入院。 ・短期利用の方が1名あった。 ・利用者全体では、平均介護度は3.6と前回より0.14(前回3.46回)から上がっている。 ・利用者一人当たりの利用回数が31.63回/31日(前回27.06回/31日)と週にすると7.1回(前回週6.7回)と増えている。 ・週4回の目安に対して、一人当たり週3.1回多く利用となっており、業務効率の見直しが必要。 ・今回の期間中は、利用者・家族・職員等の新型コロナウイルスおよびインフルエンザの感染者はなかった。 ・その他、詳細は別紙参照。</p>

(裏面あり)

5. 活動状況に関する評価・意見・要望

・社内合同研修「高齢者虐待防止」の内容は？→高齢者虐待の基本的な考え方や専門職による観察と疑いがある場合の通報義務、虐待の種類等等を学ぶ。これまでは、参加できる職員が受講し、事業所に持ち帰って伝達研修をしていたが、今は録画をして時間のある時に各職員が視聴できるようにしている。

・兵庫県では、介護サービス事業者が毎年受講しないといけない研修テーマを兵庫県シルバーサービス事業者連絡協議会が年間計画を立てて、中小の事業所が受講できるようにされているので、必要な研修を受講した職員が資料を持ち帰り、社内合同研修を開催している。

・災害の備えについて、要介護者の避難訓練について加西市では上万願寺地域で要介護夫婦の方の事例で実施した。担当ケアマネジャーや社協、地域の支援者等が事前に打合せをしながら実際に当日避難をしてもらい、想定よりも時間もかかり、いろいろな課題が見えてきた。実際の移動手段や介護方法、避難所での過ごし方や必要物品等、日頃からの備えが必要だという事がよくわかった。小学校にある備蓄品や地域の公民館で用意すべき物にどんな物があるか検討しておく必要がある。今後も様々な地域で実施しながら周知していきたいので、三口町でも該当する方があれば、ぜひ開催にむけて検討していただきたい。

・看護師の募集について、一人採用されているが、まだ足りない状況か？→看多機は、訪問看護や24時間のオンコール体制があるので、そういった対応のできる看護師さんがあれば引き続き採用したい。

・看護師に限らず、人員の充足状況は大丈夫か？ 現在いるメンバーで何とか回している状態。ケアマネジャーに関しても、1名が育休中である一人も70歳のため次の資格更新をしないため、後任を募集しているが、なかなか採用に至らない。利用者も高齢化が進み、今年100歳を迎える方がいるが、職員も高齢化が進んでいる状況で常に世代交代のために募集している。

6. 評価・意見・要望に対する考え・取組み

・事業所に対して、お気づきの点やご要望等があれば、いつでもご連絡いただければありがたいです。

7. 地域からの情報提供

・三口町には、避難場所として公民館1ヶ所、集会所が3ヶ所あり、災害の備蓄品をどれだけ用意するか難しい。個々の状況により、必要な物品も違うので準備しておく事は難しい物もある。

・三口町は75歳以上が100名を超えており、そのうちの避難対象者は1割以上はいると思われる。

・能登半島地震では、想定していることでは対応できない事が多かった。三口町は範囲が広いため、道路が寸断されると一度に公民館へ集まる事は難しいため、最寄りの避難できる場所に分散して一時避難できる場所の確保が必要。まずは最寄りの場所に一旦避難する方が良いのではないかと。

・体調の悪い方等であると受診などの支援をした場合、家族等の緊急連絡先がわからない場合など、家族でなくても病院受診に長く時間がとられる場合等がある。受診につなぐまでは地域でもできるが、その後の家族への連絡や病院の付き添い等の支援はお願いしたい。地域でも家族の連絡先がわからない事があり、困っている。

・地域での支え手や担い手が今後ますます必要となる。社協では有償ボランティアとして、誰かの役に立ちたいという方も頑張っているが、どこまですればいいのか等、困ることもある。

・地域でも子供さんの同居していない高齢者等、調子のよい時や悪い時もあり、実際に避難できる場合とできない場合もある。調子の悪い時を想定してどこにどう避難するか等も考えておく必要がある。昼間と夜間でも地域にいる人っていない人があり、時間帯でも対応方法が変わってくる。要介護の対象者にも認知症等の方がいるため、介助は男性が良くて、声かけするのは女性の方が良い方もあり、個々の事情に合わせた個別の対応が求められる場合があるので難しい。

・今後、専門職の人員不足等が懸念されていく中で、都道府県や市町でも独自に人員確保の仕組みを導入している自治体も出てきており、さらなる専門職の確保が厳しくなると思われる。

・一人暮らしや高齢世帯、子供さんのいない世帯等、緊急時に連絡がとれずに困ることが増えている。要介護者等はケアマネジャーや地域包括支援センターで緊急連絡先を確認できているが、それ以外の高齢者になると地域の方でも連絡先がわからない場合がある。万が一の時のために連絡先や既往歴やお薬情報等を冷蔵庫等に保管している富合地域もあるが、三口町をはじめ他町では準備ができていないところが多い。

8. その他特記事項

・別紙、参考資料等の説明

- 1.兵庫県 看多機の普及にむけて・・・兵庫県では、県民の皆さんが住み慣れた自宅以最期まで暮らせるように定期巡回型サービスと看多機サービスが利用できるように積極的に整備している。今後、病床床の減少や多死社会に向けて、最期をどのように過ごすのかを考えておく必要がある。
- 2.厚生労働省 介護サービス情報の公表システムの使い方・・・2月15日提出締切で、北播磨地域の介護事業所・施設が新しい情報を報告する。一般の方が見れる仕組みで、サービスを探す時の参考にして欲しい。
- 3.兵庫県 作るマイ避難カード・・・能登地震の状況が明らかになってきて、介護サービス事業者は災害時の業務継続計画(BCP)の見直しも必要となっている。地域の皆さんもそれぞれ家族と避難カードを作成して、命を守る取り組みを考えていただきたい。地域の皆さんにもすすめていただきたい。
- 4.兵庫県「誰一人取り残さない」防災研修・・・災害時の避難支援に関心のある地域の皆様にも参加していただきたい。
- 5.兵庫県 要配慮者支援について・・・個別避難計画作成をモデル地域でやってみた課題がまとめられており、これから行う場合の参考に役立てていただきたい。
- 6.兵庫県 防災ネットアプリの活用・・・あらためて兵庫県の防災ネットアプリをまだ登録されていない型へ声かけをお願いします。